

決意を新たに ～学院創立130周年にむけて～

追手門学院大学・大学院

「勝ち抜く大学」をめざして、今後も改革を断行



学長 川原 俊明

昨年、追手門学院大学は、創立50周年を迎えました。多くの卒業生の活躍は、本学の誇りです。追手門学院大学の発展は、卒業生のご支援なしにはあり得ません。現在の追手門学院大学は、2015年開設の新学部・地域創造学部を含め、文系6学部の総合大学となりました。現在の学生数も7000人弱となり、今後も、学部改組、収容定員増を予定し、近く、8000人規模の大学をめざします。

さらに社会の多様な人材要請を見据え、文理融合系の学部設置に向けて、検討を開始しました。



少子高齢化社会の中で、私学間競争は、激化の一途をたどっています。しかしながら、本学は学院創立130年の歴史を背景に、多くのステークホルダーの強力なバックアップのもとで、「勝ち抜く大学」をめざします。

将来予測が困難な時代において、大学の役割は、未来社会を自ら切り開く人材の育成にあります。そのためにも、従来型の講義体制を改め、学生に主体的な学びの姿勢を身につける教育に転換していきます。しかも他大学に先駆



けて少人数授業体制を積極的に取り入れることにしました。学生自身が自ら学びの重要性に気づき、進んで学びを深めていくことが、大事なことです。

2019年4月には、茨木市のJR新駅近くに新キャンパスを開設します。新キャンパスでは、新入生全員と一緒に学び、充実した基盤教育とともに、学びの姿勢を身につけます。学部として全面移転を想定する地域創造学部と国際教養学部は、フィールドワークを活用して、「世界がキャンパス」「地域のグローバル化」など、他の大学に先駆けて「新しい大学」を展開します。大学の先進的な取り組みは、『mon』を通じ、すべての卒業生に情報提供させていただきます。よろしくお願ひします。

追手門学院大手前中・高等学校

節目の時をさらなる飛躍の機会と捉えて、成果を出していく



校長 木内 淳詞

学校にとって、節目の年を迎えることは、非常に大きな意味を持ちます。2018年度に学院の創立130周年、2020年度には両中高の70周年を迎えますので、本校では今までの教育を振り返り、それを踏まえたくて将来の学校像を明確にして、節目の時をさらなる飛躍の機会として捉えたいと考えています。

取り組むべき課題は、①進学強化策の打ち出しとそれによって確かな成果をあげること。②

生徒主体の新たな学びの研究と実践を進め、学力を伸ばして生徒・保護者の満足度を向上させること。③各校園・大学との連携を進め、総合学園としての評価を高めること。④前述の①～③をしっかりと広報し、中学・高校の安定した生徒募集の成果に結びつけること。すべての教育活動は、最終的には社会的評価の表れである生徒募集につながるという意識を持って取り組みを進めてまいります。

追手門学院小学校

次世代のリーダー育成を「伝統」と「革新」の教育で実践していく



校長 東田 充司

学院創立130周年に向けて、発祥校である小学校は、礼儀礼節を踏まえた国際的視野を持つ「志高い子」の育成に努めてまいりました。2020年の新学習指導要領の全面実施に先駆け、多様で質の高い学びを引き出す授業形態へ移行します。

大きな改革は英語教育です。本年度より従来の週1時間を週3時間とし、「聞く・話す・書く・読む」の4技能を効率よく学ぶ環境を整

えました。英語だけでコミュニケーションを行う「Otemon English Village」も開設しました。

東館に隣接した国有地(約1100㎡)を取得し、運動場を拡張するとともに、未来型学習拠点となる新東館を建設します。

語学力と情報収集力の向上を図るほか、ICT教育環境を完備した、主体的・対話的で深い学びの場を実現します。

どうかご支援を賜りますようお願いいたします。

追手門学院中・高等学校

新キャンパスで学びが変わる



校長 原田 哲次

我が国は天然資源も乏しく、少子高齢化、グローバル化が進む中で国の繁栄を図るには人材育成しかありません。通勤の御堂筋線で「sorry」と言う言葉を毎日何度も耳に、地球が小さくなっていることを実感しています。大学入試改革に象徴されるように学校教育の改革が迫られています。生徒には「知識・技術を外国人にも説明し理解させる能力」や「様々な文化、価値観の違う人と共存・共栄していく能力」が求め

られ、教師にはそうした生徒を育てる教師力が求められています。本校はユネスコスクール認定校でもあり、次代を担う「新しい学び」ができる学校を、2019年4月の開校を目指して教職員一丸となって取り組んでいます。様々な学習形態で知識を吸収すると共に、豊富な知識を有効に活用する力を養う新しい教育システムで「独立自彊・社会有為」を体現する人材育成を目指します。ご支援を賜りますようお願いいたします。

幼保連携型認定こども園 追手門学院幼稚園

より一層子どもたちの主体性、表現力を育てる教育保育を実践



園長 田邊 雅一

学院創立130周年と幼稚園創立50周年を控え、幼稚園では教育保育内容の質について保護者の皆様より高い推薦度を得ているところです。今後も従来大切にしてきました基本的な生活習慣と一人ひとりの個性を大切に、自尊心を涵養することを目指します。また、2019年度の教育保育要領の改定に向け、より一層子どもたちの主体性、表現力等を育てることを考えたカリキュラムも行っていく所存です。

子どもたちのよりよい保育環境実現のため教育課程園舎の冷暖房機器の刷新を計画しております。創立40周年記念で建設された教育課程園舎は開放的で明るくとても良く考えて設計された建物ですが、築10余年が経過し冷暖房機器の故障多発や能力低下が顕著になってきております。子どもたちにより快適な保育環境を提供するためにも皆様の一層のご厚志をお願いいたします。